

名勝哲学堂公園

中野区では、令和5年3月に策定された名勝哲学堂公園保存活用計画（以下「保存活用計画」という。）に基づく哲学堂公園の再整備について、以下の方向性で取組を進めてまいります。

●与条件の確認（保存活用計画の概要）

保存活用計画は、哲学堂公園の今後の保存、活用、整備、運営体制等について基本的な方針を示したものであり、計画策定にあたっては、学識経験者、区民、行政関係者から成る「名勝哲学堂公園保存活用計画検討委員会」を設置し、会議により議論を重ねて策定された。概要は以下のとおり。

《哲学堂公園の本質的価値》

- (1) 哲学を普及するために具現化させた文化的公園
- (2) 風致と自然立地が活かされた景観と緑
- (3) 精神修養・社会教育を継承する公園

《上位計画》

中野区基本計画、中野区都市計画マスタープラン、中野区みどりの基本計画、中野区教育ビジョン 等

《計画の理念》 人と風景を育む哲学の名勝

《哲学堂公園の将来像》

来園者の一人一人が哲学への親しみや奥深さを感じ、また、緑にふれあいながら、円了が創設し玄一が継承した精神修養、社会教育の場を活用することで、哲学堂公園を守り育てていく人や地域づくりを目指す。

《基本方針（3つの柱）》

- 1 円了と玄一が築いた遺構を確実に保存し、伝える
- 2 哲学と自然とが一体となり造り出された風致景観を保全する
- 3 多様な主体が活動・交流する場として活用する

《計画期間》

令和5年4月から、概ね令和15年3月までを目安

●都市公園の利用等に係る現況把握

日常管理を行う指定管理者が、「哲学堂公園等利用実態調査」として、利用者への聞き取りを定期的に行っている。令和2年度及び令和4年度の調査結果から確認される、公園利用者のニーズは以下のとおり。

《利用者ニーズの概要》

- ・散歩や動植物の観察など、一般的な都市公園としての利用が7割ほどを占め、「緑が多い」「池や水辺がある」ことに魅力を感じている来園者が多い
- ・国名勝であることを「知っている」来園者が37%に留まる
- ・出入口の利用案内や順路案内等の充実を求める声が多い
- ・園路の損傷や凸凹により躓く危険性があり、早急な対応が必要
- ・トイレの老朽化が進み、改修等が必要

など

再整備の視点

現在、保存活用計画検討委員会における学識者委員4名（造園学2名、建築学1名、哲学堂研究者1名）及び関係行政機関（文化庁、都教育庁）を交えた議論のもと、以下の視点で整備内容を検討中。

※概ね令和16年3月までを目安とした短期・中期的な整備内容を主として検討する。

文化財の価値を高める保存管理に関する整備

哲学堂七十七場及びその順路めぐりの復元を目的とし、毀損又は劣化している文化財について修復、復元、複製作成等を進めるとともに、後世に継承するための適正な保存、記録の措置を講じる。

文化財の価値を伝える活用に関する整備

文化財の価値を伝える案内・解説板のほか、ガイドマップやガイダンス等の充実を図る。また、哲学堂公園の価値を伝えていくための拠点機能について、管理棟の施設更新と併せた導入を検討する。

利用と安全に関する整備

都市公園としての利便性や安心・安全に配慮し、エントランスや舗装、柵、手摺、トイレ、ベンチ、インフラ（給排水・電気）等の劣化等への対応と、バリアフリーの視点に立った整備を検討する。

また、長い年月をかけて醸成された緑の風致を計画的に保全、管理していくとともに、利用者の安全確保や樹木の健全性等の観点を踏まえ、樹木の老齢化や枯損等への適正な対処を行っていく。